

平成 27 年度事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

公益社団法人日本馬術連盟（JEF）は、平成 27 年 3 月 5 日の平成 26 年度第 7 回定例理事会において承認された平成 27 年度の事業計画および収支予算に基づき、以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。

平成 27 年度に開催された特に重要な国際大会として、リオデジャネイロオリンピック地域予選競技会があった。

障害馬術は、グループ G の上位 2 カ国に団体枠が与えられるものであったが、5 カ国中 1 位となり、2004 年のアテネ大会以来 3 大会ぶりに団体枠を獲得した。馬場馬術は、1 つの枠を南アフリカと争ったが、最終演技者が 0.06 ポイント差で逆転するという劇的な勝利で、2 大会ぶりに団体枠を獲得した。総合馬術は、団体枠は取得できなかったものの、個人出場枠を 2 枠獲得した。結果、リオデジャネイロオリンピックには歴代タイとなる総勢 10 人馬が出場することとなった。

馬場馬術自由演技に関して音楽著作権の問題が生じたことから、全日本ジュニア馬場馬術大会・全日本馬場馬術大会パートⅡ（8 月）および全日本馬場馬術大会パートⅠ（11 月）の自由演技を中止とし、併せて公認競技会の自由演技を自粛した。なお、JEF は問題の解決に向けて関係機関と協定を結び、年度内に公認競技会の自由演技を再開した。

マーケティング活動を本格的に開始し、6 社が最上位であるオフィシャルパートナーとなった。パートナーシッププログラムを着実に実行するとともに、馬術振興のための施策を実施した。

国際馬術連盟（FEI）のイングマー・デ・ボス会長およびサブリーナ・イバネツ事務総長が初来日し、東京オリンピック・パラリンピック会場予定地の視察と、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会等関係する団体との意見交換を行った。また、FEI 総会が、25 年ぶりとなる平成 28 年に東京で開催されることが決定した。

各事業については、以下のとおり；

1. 馬術の普及・振興

(1) 馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイトを運営し、競技会の情報や規程の改正などの情報を迅速に広報した。
- ② 競技会の実施要項や成績速報、講習会の案内などを迅速に掲載するとともに、『馬術情報』とウェブサイトをクリックして広報の充実を図った。
- ③ インターネットを活用し、馬術大会の LIVE 放映を 14 回（共催・他団体主催 4 回を含む）実施した。

(2) 機関誌発行

- ① 情報を的確に伝達し、馬術の振興および各種記録の保存に資するため、月刊機関誌『馬術情報』を刊行した。
- ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、

購読希望者に対し頒布した。

(3) 馬術関係資料の作成・配布

- ① 各種規程集および馬術競技（日馬連の公式種目等）の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。また、競技会プログラムにもルール解説を掲載し、競技場にて配布した。
- ② マスメディアに対し情報を積極的に提供した。特に、朝日新聞、神戸新聞、静岡新聞、日本放送協会、静岡放送には大会の後援を依頼し、広報を充実させた。また、NHKの全日本障害パートI放映およびBS11の全日本馬場パートI放映に協力した。

(4) マーケティング活動

- ① 6社が最上位スポンサーであるオフィシャルパートナーに、1社がオフィシャルサプライヤーとなった。
- ② パートナーシッププログラムメニューを的確に実施した。
- ③ 馬術振興策として、全日本障害パートIの集客策や、公式フェイスブック開設等を実施した。

(5) 各種表彰

- ① 永年に亘り馬術界に功績のあった人馬7名（功労者2名、地域功労者5名）15頭を表彰した。また、国内外競技会において、優秀な成績を収めた人馬4名8頭を表彰した。
- ② 競技馬の資質向上のため、優秀な成績を収めた乗馬に対して飼育奨励金を交付した。
- ③ 競技馬の資源確保および調教技術向上を図るため、優秀な成績を収めた内国産馬（元競走馬を含む）に対して飼育奨励金を交付した。
- ④ 優秀な成績を収めた内国産乗用馬の生産者に対して感謝状を贈呈した。

(6) 馬術基盤の維持拡大

- ① 組成団体に対しその加盟する団体が所有する馬匹について、飼育費助成および優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟および組成団体等の事業費・事務費の助成を行った。
- ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
- ③ 内国産馬の振興を図るため、内国産馬限定競技を主催競技会に組み入れるなど、内国産馬の活用を促進した。

2. 会員と乗馬の登録

- ① 選手や指導者あるいは団体の活動をサポートするため、会員（個人6,312、県馬連所属団体377、組成団体所属団体266）および乗馬（3,880）の登録を行った。
- ② FEI公認競技会に参加する人馬および競技役員のFEI登録事務を実施した。
- ③ 「JEF情報システム」を活用し、登録における会員サービスの向上および事務の合理化を図った。

3. 競技会規程の制定、各種資格の認定

(1) NF 活動 (National Federation : 国内を統括するスポーツ団体)

FEI スポーツフォーラム (スイス・ローザンヌ)、FEI 総会 (プエルトリコ・サンファン)、FEI ノミネーション委員会およびアジア馬術連盟総会に参加し、国際情報を迅速に収集し、日本馬術界の国際的地位向上に努めた。

平成 27 年 12 月には、イングマー・デ・ボス FEI 会長およびサブリーナ・イバネツ事務総長が来日し、東京オリンピック・パラリンピック会場予定地視察、関係者との意見交換等を行った。

なお、2016 年 FEI 総会の東京開催が、3 月 16 日の FEI 常任理事会において決定した。

また、日常的に FEI と緊密に連携し、国際的に活動する選手を支援した。

(2) 競技会規程の制定・整備

JEF の各種規程の制定および改廃を行った。また、FEI 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI 規程の国内適用を図った。

(3) 競技役員資格

- ① 審判員等技術役員資格者の認定および資格保持者の技術向上のため講習会を実施 (9 回) するとともに、都道府県等が開催する講習会を公認 (12 回) した。
- ② 障害馬術競技で使用するコースの設計および設営を担うスペシャリストとしてのコースデザイナー講習会を開催 (1 回) し資格を認定した。
- ③ 講習会の内容の統一のため、講師の研修会を開催 (1 回) した。
- ④ 国際競技役員養成のための FEI 公認講習会を開催 (1 回) した。

(4) 指導者資格

① 日本体育協会公認スポーツ指導者

(公財)日本体育協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムによる日体協公認馬術コーチ養成専門科目講習会を開催し、馬術に特化した馬術コーチ・指導員の増員を図った。

② 日本馬術連盟認定馬術指導者

馬術指導者の資格認定・更新および専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自のカリキュラムによる JEF 認定指導員養成講習会を開催し、指導者 (24 名) の増員を図った。

(5) 選手の資格認定

主催・公認競技会・国際競技会参加のための騎乗者の資格認定・登録を行った (A 級 37 名、B 級 441 名、C 級 100 名)。

都道府県等が開催する騎乗者資格認定のための講習会 (B 級 30 回、C 級 32 回) を公認した。

(6) 競技会の公認

JEF 公認競技会のカテゴリー制・馬のグレード制を円滑に運営し、活性化に努めた (障害 110、馬場 67、総合 7、エンデュランス 19 : 合計 203)。

4. 選手の強化

- ① 東京オリンピック強化対策プロジェクト等を開催し、オリンピックに向けた強化の在り方について検討した。
- ② 騎乗・調教技術の向上を図るため、海外からコーチを招聘して強化訓練を実施した（障害2、馬場1、総合3）。
- ③ 文部科学省が進めるナショナルトレーニングセンター中核拠点施設整備の馬術競技強化拠点として御殿場市馬術・スポーツセンターを活用した（27回、内JEF12回）。
- ④ 国際レベルの選手を育成するため、ヤング・ジュニア層の発掘および強化のため研修会を開催（6回）するとともに、海外の競技会・強化訓練等に若手選手等を派遣した（障害3回、馬場2回、総合1回）。
- ⑤ 総合馬術の選手層を厚くするために実施した「総合馬術選手発掘プロジェクト」にて選抜された選手等を、海外強化合宿に派遣した。
- ⑥ 優秀な成績を上げた選手をナショナルチームメンバーに認定した（障害11人馬・プログレス20人・プログレスジュニア31人、馬場6人馬・プログレス37人・プログレスジュニア25人、総合4人・プログレス15人・プログレスジュニア19人）。
- ⑦ また、ジュニアアスリート担当のJOC専任コーチングディレクターを2名（馬場1、総合1）設置し、将来を担う若手の育成を図った。

5. 競技会の開催

(1) 競技会の開催

全日本障害馬術大会（パートI、パートII、ジュニア）、全日本馬場馬術大会（パートI、パートII、ジュニア）、全日本総合馬術大会（パートI、ヤング、ジュニア）、全日本エンデュランス馬術大会を主催した。また、障害・馬場の全日本ジュニアおよび全日本ヤング総合馬術大会はJOCジュニアオリンピックカップ大会として主催した。

(2) 国民体育大会等の共催

第70回国民体育大会（和歌山県）馬術競技（三木ホースランドパーク）を文部科学省他の団体とともに主催した。また、全日本学生馬術大会2015および第87回全日本学生馬術選手権大会・第51回全日本学生馬術女子選手権大会を全日本学生馬術連盟とともに主催した。

(3) FEI公認競技会

- ① JEF主催により、FEI公認馬術大会を6回（チルドレン障害1、馬場2、総合3）開催した。
- ② 日本国内で会員団体が主催するFEI公認馬術大会12大会（障害7、総合1、エンデュランス4）の開催を支援した。

(4) ドーピングの防止

- ① 打ち合わせ会等での関係者に対する指導を通じて、馬のドーピング防止に努めた。

- ② 主催競技会（18 頭）および FEI 公認大会（25 頭）において馬ドーピング検査を 43 頭に実施した。
- ③ 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と協力して、競技者のドーピング検査を 18 名に実施した。

6. 国際競技会への派遣・支援

- (1) 国際競技会等へ選手・役員を派遣（障害 7、馬場 2、総合 1、エンデュランス 1）し、競技力向上および海外情報収集に努め、併せて国際交流・親善を深めた。
- (2) リオオリンピック地域予選競技会
 - ① 障害馬術の地域予選競技会はドイツ・ハーゲンで開催された。団体出場国は日本、オーストラリア、香港、台湾、フィリピンの 5 カ国・地域で上位 2 カ国に団体枠が与えられる。日本代表は、杉谷泰造&アヴェンツィオ、林忠寛&コラナズエムアンドエム、福島大輔&コーネット 36、榊井俊樹&タルーベダルコ KZ の 4 人馬である。第 1 ラウンドは、榊井&タルーベダルコ KZ が減点 12、福島&コーネット 36 が減点 4、林&コラナズエムアンドエムが減点 5、杉谷&アヴェンツィオが減点 0 で、団体成績として日本は減点 9 となり、1 位のオーストラリアと 1 点差の 2 位となった。第 2 ラウンドは、榊井&タルーベダルコ KZ、福島&コーネット 36、林&コラナズエムアンドエムの 3 人馬が減点 0 で、2 回の走行の総減点が 9 となり、杉谷&アヴェンツィオの走行を待たずに日本の 1 位通過が決定した。日本の団体枠の獲得は、アテネ大会以来 3 大会ぶりである。
 - ② 馬場馬術の地域予選競技会はドイツ・ペルルで開催された。団体出場国は日本と南アフリカの 2 カ国で、上位の国に団体枠が与えられる。日本代表は、高橋正直&ファブリアーノ 58、林伸伍&ラムゼス・デアツヴァイタ、黒木茜&ドン・ルカ、佐渡一毅&ジロコの 4 人馬である。1 番手の佐渡&ジロコが 65.180%、2 番手の黒木&ドン・ルカが 66.280%、3 番手の林&ラムゼス・デアツヴァイタが 65.640%、4 番手の高橋&ファブリアーノ 58 が 68.660%で、上位 3 名合計が 200.580 となり、南アフリカの 200.520 を僅か 0.06 ポイント上回り、日本は北京大会以来 2 大会ぶりに団体枠を取得した。
 - ③ 総合馬術の地域予選競技会はオランダ・ブックローで開催された。団体出場国は日本とニュージーランドの 2 カ国で、上位の国に団体枠が与えられる。日本代表は、大岩義明&ザ・デュークオブカヴァン、田中利幸&バラスターベイ、北島隆三&ジャストチョコレート の 3 人馬である。馬場馬術競技では、日本は減点 156.30、対するニュージーランドは減点 124.70 で 31.60 点リードされた。クロスカントリー競技では、大岩&ザ・デュークオブカヴァンが減点 8.4、田中&バラスターベイが失権、北島&ジャストチョコレートが減点 28 で、日本は減点 1134.70、対するニュージーランドは減点 158.00 となった。障害競技では、大岩&ザ・

デュークオブカヴァンが減点0、北島&ジャストチョコレートが減点1で、日本の総減点は1135.70、対するニュージーランドは198.90で団体枠を取得することができなかった。なお、個人ランキングにより、日本はリオオリンピックの個人出場権を2枠獲得した。

- (3) ワールドカップ日本リーグ第2位の小池啓補&ヴェスヴィウスが、3月23～28日にスウェーデン・イエーテポリで開催されたCSI-W Finalへ参加したため、輸送支援を実施した。なお、スピード&ハンディネスのファイナルIと、標準障害のファイナルIIのトータル順位は30位で、ファイナルIIIに進む権利を得たが、馬の状態を考慮して棄権した。
- (4) 世界各国におけるFEI公認馬術大会に参加する日本選手（障害25名延1,059頭、馬場7名延67頭、総合3名延61頭、エンデュランス1名延1頭）を支援した。
- (5) 国際馬術基盤強化推進支援事業（JRA特別振興事業）
 - ① リオオリンピックの出場資格の取得に向けて、CDI3*を2回、競技力強化のためCIC2*を1回開催した。
 - ② リオオリンピック地域予選会の代表選手選考競技会（障害馬術）をドイツで開催した。
 - ③ リオオリンピックに向けて強化コーチングチームを設置した。

7. 東京オリンピックの準備

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会(TOGOC)およびJRAと、2020東京オリンピック馬術競技会場の整備について検討した。TOGOCがクロスカントリーコースデザイナーにデレク・ディ・グラジア氏(USA)を決定した。

(1) 会員登録数

区 分	H27. 3. 31 (A)	入会	退会	H28. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
① 正会員	55	0	0	55	0	100.00
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00
ハ. 学識経験者	4	0	0	4	0	100.00
② 登録会員	6,927	627	599	6,955	28	100.40
イ. 個人	6,284	601	573	6,312	28	100.45
ロ. 県馬連に所属する団体	375	15	13	377	2	100.53
ハ. 組成団体に所属する団体	268	11	13	266	△ 2	99.25
全日本学生馬術連盟	80	1	1	80	0	100.00
全日本高等学校馬術連盟	96	10	9	97	1	101.04
日本乗馬少年団連盟	63	0	2	61	△ 2	96.83
日本社会人団体馬術連盟	29	0	1	28	△ 1	96.55

(2) 乗馬登録数

区 分	H27. 3. 31 (A)	登録	抹消	H28. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
乗馬登録数	3,735	628	483	3,880	145	103.88

(3) 平成27年度 FEI登録者数

区 分	選手	馬匹
障害馬術	63	106
馬場馬術	24	34
総合馬術	21	40
エンデュランス	23	19
軽乗	1	-
パラ馬術	3	3
合 計	135	202

(4) 平成27年度 FEIパスポート交付・更新数

新規交付	10
更 新	28
変 更	22
再発行	1

(うちマイクロチップ埋込み 3件)